

アメリカとフィリピンの サマーキャンプ受付開始！



私たちが毎年キャンプを開催するのは、子どもたちの命がかかっているからです！

ニューヨークでは、私たちが関わっている子どもたちのほとんどが、過酷な環境で成長していきます。子どもたちは常に、ギャングによる暴力や脅迫の影響を受け続けています。夜中に銃声やサイレンの音で目が覚めることもよくあります。周りにいる人たちが刺されたり、殴られたり、強盗に遭ったりするのを目撃することも珍しくありません。子どもたち自身も、何らかの形で虐待や育児放棄の被害者であることもしばしばです。だからこそ、私たちメトロが、これらの子ども

締切
5月25日(土)

たちに、彼らの住んでいる地域に出かけて行って日曜学校を開催することが非常に重要なのです。

さらに私たちは、年に一度、皆さんのような友人のご支援によって、多く子どもたちを、鉄格子付の窓、落書きだらけの建物、危険な通りなどの環境から連れ出し、キャンプを開催することで、数日間は、笑いと愛に囲まれた交わりのある、特別な時を経験できる貴重な機会をいただいています。

私たちのキャンプカウンセラーは、子どもたちとの一対一の大切な時間を持ち、子どもたちの話を聞き、励まし、祈ります。ペンシルバニア州のキャンプ場には、スポーツ、カヌー、釣り、ハイキング、ゲーム、アーチェリー、水泳、アスレチックロープコースなどの施設があります。毎晩のチャペルでの礼拝は、神様が自分たちをどれほど愛しているのか、また、祈りと礼拝を通してどうすれば神様と共に歩むことができるのかを理解できるようにします。

そして、子どもたちをキャンプに送ることによって、彼らに与えることができる最大の恵みは、彼らの人生を永遠に変えるキリストを受け入れる機会を与えることです。

QRコードでのお申込はこちらから⇒



サイトからは、<https://metroworldchild.jp/summer-camp/>

詳細は、同封の申込用紙をご確認ください。



常時スポンサー募集中！

お申し込みはこちらから⇒

<https://metroworldchild.jp/apply-for-sponsor/>



今月の引き落とし日！

4月30日(火)です。口座をご確認ください！

今月号の目次

P2～3…ビル師からのメッセージ
—ガザ地区での奇跡

P4…日本事務所からの重要なお知らせ

ビル師からのメッセージ



イースターの日

私は復活祭の日曜日の朝の礼拝の後、夕方 4 時過ぎに、マクドナルドの駐車場に座ってチーズバーガーを食べていました。誰とも食事に行きたくない気分でした。

ニューヨークのメトロ日曜学校の報告が入りました。彼らは数千人の子どもたちと共に、イエス様の復活を祝う素晴らしい日曜学校を開催しました。主を讃美します！ たくさん子どもたちとその親が、福音の本当の意味を知りました。

さらに私は、ガザのチームからの報告をずっと待ちました。彼らは、メトロがずっと日曜学校を行ってきたジャバリア難民キャンプのその場所で、復活祭の日曜日の正午に、メトロ日曜学校を行うことを決断していましたが、戦争の最中では、もうそれはどう考えても不可能なことでした。

それでも、数週間前ハン兄が、路上で3人の少女が空腹のため、死んだ猫を食べているのを目撃したのをきっかけに、ハン兄と数人のボランティアが、「日曜学校を復活させなければ！ 私たちはやらなければならない！ イースターなんだから！」と決断したのです。

おそらくこれを読んでいる方の中には、イエス・キリストの復活を祝うよりも、トランスジェンダー・ビジビリティ・デーを設ける方が重要だというジョー・バイデンの決定に腹を立てている方もいることでしょう。

そして、ノースカロライナ州の教会について聞いた方々もいらっしやるかもしれません。この教会は複数のキリスト教系の大学に影響力を持っていますが、人々の怒りを買わないために、今年のイースターの案内状に、復活やカルバリ、イエスの血などという言葉を使用しなかったのです。それで、私は今、非常に頭にきて怒ってマクドナルドに座っています。

ガザには、イエスの血や復活、カルバリという言葉を使わない若者たち、さらには高齢者もいるということを知っています。彼

らは、戦争の最中にもかかわらず、日曜学校を行うために必要なことは何でも喜んで行き、犠牲を払います。

今年のイースターでは、パレスチナ人の小さな子どもたちとその親たちに向かって、復活した神の御子の御名を掲げました。多くの皆さんが、イースターのメッセージに対して否定的なはずだと思っている人々でしたが、そうではありませんでした。

今年のイースターの聖日に、イエスの名を掲げることを恥じた人々や教会がたくさんありましたが、私たちのチームはイエスの名において、文字通り福音のために自らの命を捧げることをいとわなかったのです。

彼らが難民キャンプで野外での日曜学校を行うことを決めた時、それまでにスタッフや関係者の数名が命を落としていたので、自分たちも命を落とす可能性があることを十分に承知していました。私は、彼らを助けるためにそこにいるべきでした。

その日曜日に、野外の神の家でいくつかの奇跡が起こりました。銃声を背景に、爆破された建物に囲まれた難民キャンプの空き地。それでも、そこにいた人たちは皆、イースターの本当の奇跡を目撃したのです。パレスチナ人の小さな子どもたちとその両親、そして日曜学校を警備していたイスラエル国防軍さえも、それを受け入れました。それは、彼ら全員が生涯忘れることのない復活祭の日曜日でした。

それで…。レンタカーの中でチーズバーガーを食べ終えた時、私は奇跡がまだ現実にあること、それが今でも起こっていることを改めて実感しました。彼らの人生は変えられ、イエスを信じ、信仰を持ったのです。私は、そのことを多くの人々よりもわかっています。イエスの御名とその奇跡こそが、キリスト教が世界の他の宗教と全く違うところなのです。

少年時代に住んでいた教会の最前列に座ってよく歌っていた古い歌のように…。

「あなたは私に、彼が活着していることを知っているかと尋ねましたが、彼は私の心の中におられます…そして彼は生きておられます」

人々が十字架を信じ、イエスの血潮を信じ、復活を信じ、キリストの再臨を信じ、その証しを分かち合う時に、私は、今も奇跡が起こることを祈ります。それは、私たちが住んでいるこのひどい世界に住む、あなた方すべてと、今、救いを必要としているあなたの周りの方々のために起こります。

今回は、あなたを奇跡の旅へお連れします。それは、戦争のさなか、生き残ったパレスチナ人とユダヤ人がイエスの御名のもとに協力し、変化をもたらす信仰によって現わされたのです。

1つ目の奇跡

戦争中のこのような時に、あらゆる困難が、いろいろな方面

から私たちに襲いかかっているように思えました。メアリーの死は、私たち全員にさまざまな形で影響を与えました。私はあの夜、ガザで私がメアリーを見つけた後、パレスチナ人スタッフのハン兄が彼女の面倒を見るのがわかっていたので、とても申し訳なく思っていました。ハン兄と彼の母親は、最善を尽くしてくれました。皆さんの多くは、私たちが彼女の薬を手に入れることができなかつた話を覚えているでしょう。私たちの中に、このすべての出来事から完全に立ち直れた人がいるかどうかわかりません。

そこで、私は、ハン兄とボランティアの皆に、日曜学校を続けるための物資や食料、支援がないので、日曜学校を続けることは不可能だと伝えました。中心的なスタッフは殺され、現在ハン兄自身はヨルダン川西岸に住んでおり、ガザで日曜学校を再開する方法はないと思われました。

しかし、私がアモス書3章12節から説教してきた子羊をライオンの口から何とか救い出そうとする羊飼いについてのメッセージと同じように彼はあきらめませんでした。彼には、自己犠牲が必要でした。私が知らないうちにハン兄は壊れた自転車を手に入れ、難民キャンプとヨルダン川西岸を一人で行き来していました。日曜学校で私たちが出会った子どもたちや人々に密かに会いに行っていたのです。彼は、子どもたちに、私たちが彼らのことを忘れてしまったと思わせたくなかったのです。

4週間前、何ができるかを調べるために彼がそこを訪れた時、道端で死んだ猫を3人の少女が食べているのを見つけました。そのことが彼を行動へと突き動かしました。私は、宣教活動に長く携わってきたので、ほとんどのクリスチャンは刺激を受けるのが大好きなのを知っていますが、実際に行動を起こす人は、そういう人とは全く違います。

この若者は、「日曜学校を再開しなければなりません。私たちは何かをしなければならぬんです！」と言いました。

イエスの復活の希望を与え、イエス様が彼らのために何をしてくださったかを伝えることができれば…。それを彼らに理解してもらうためには、復活祭の日曜日にやるしかありません！」。そして、計画は始まりました…

イスラエル人スタッフのアンドリュー兄は、食料を手に入れるために動き、ハン兄は北の検問から食料を運び入れようと計画しました。誰もが、自分にできる最善の方法で支援しようとしていました。私たちが、少なくとももう一度イースターに日曜学校を行うという知らせを聞いて、食料を調達するための物資を送ってくれる多くの支援者も起こされました。

ハン兄は私に予定表を送ってきました。「復活祭の日曜日のガザ時間の正午に日曜学校を行う予定です」。私は彼に、スタッフやボランティアの何人かがすでに殺害されているのだから、殺される可能性が非常に高いことを何度も伝えました。彼は、それはわかっているが、やるしかない、と言いました。私は彼にこう言いました、「友よ、きみたちを支援し続けるよ」。

そこで、以前毎週行っていたのと同じ場所で日曜学校を行うことが決まりました。ボランティアたちは、爆破された建物や瓦礫に囲まれた空き地の片付けを始めました。何が起こるかわかりませんでした。彼らも私もリスクは承知の上でした。

ハン兄とボランティアたちは、土曜日の夜遅くに国境を越えて食料を手に入れ、中には夜通し食料を守らなければならなかった人もいました。ハマスが近くに食料があることを知れば、盗みに来ることがわかっていました。日曜学校の食料を守るため、命を落とした人もいましたから。

ハン兄は日曜学校の準備をしていました。彼は、亡くなったボランティアのお母さんの墓から、十字架を借りてきて、日曜学校のメッセージ用の小道具にしました。何が起こるか分からない中、すべての準備が整い、誰もが祈っていました。

メロチームは、遠くで銃声がするのを耳にしましたが、それでも1,003人のパレスチナ人の子どもたちと保護者が来てくれました。彼らは、その空き地を埋め尽くしました！ その日、1,003人が少しのパンと水を手にして、イエス・キリストの話を聞きました。それは、羊飼いの心を持ち、集まった人々に奇跡を起こすためには、どんなことでも喜んで行う人々がいたからです。それは1つ目の奇跡でした。

日曜学校の準備が整い、ハン兄がカウントダウンで子どもたちを先導し、開始のホイッスルを吹く準備ができていました…そして、奇跡はさらに続いたのです…。

次回は、2つ目の奇跡をお届けします。

ビル・ウィルソン



メロへのご支援は、以下からお申し込みいただけます。

<https://metroworldchild.jp/offering/>

お申し込み時に、献金の目的をご記入ください。



スポンサーの方は、口座引き落としも可能です。電話やメール、FAXでも受け付けています。



先週、彼が私に電話してきた時、彼はこう言いました。「もう一度だけでも日曜学校を行うなら、最もふさわしいのは、イースターに違いありません」。彼は続けて、「この子どもたちにイ

日本事務所からの重要なお知らせとお願い

ビル師は回復しています！

ビル師は、皆様のお祈りに支えられ、毎日心臓の機能回復リハビリを続けています。これからもリハビリが続きますし、外部での活動に出られるようになるには、まだ少々時間がかかると思いますが、引き続きお祈りいただければ幸いです。本部でのミーティングでは、すでにいつもの調子で熱く語りはじめています。



現在開催中のキャンペーン！

先月もお知らせしましたが、年間を通して様々な企画を行いますので、毎月のレポートを必ずご確認ください。ご支援の参考にしてください。

現在行っているキャンペーンは、以下の通りです。

4月：フィリピン就学支援(4月25日締切)

5月：アメリカキャンプ支援(5月25日締切)
フィリピンキャンプ支援(5月25日締切)

また、ご支援いただいています子どもの誕生日の前月には、お知らせの手紙を同封しますので、必ず開封して中をご確認ください。ご自身の状況に合わせてプレゼントをお考えいただければ幸いです。ネットや電話などでお申込みいただければ翌月のお引き落としに加算することもできます。



！ 違いを生み出す月曜日！

メトロの働きは各国で急激に拡大し、サポートの必要な子どもの数は、飛躍的に増えています。新規スポンサーを常時募集していますので、よろしくお願いたします。コロナや戦争で、貧困地域の状況は悪化し続けており、ケニアでは、以前から食事をまともに食べることができない子どもがたくさんいましたが、今はさらに深刻な状況です。現地を訪問した若いスタッフは、その悲惨さを目撃して、「違いを生み出す月曜日」のキャンペーンを提案。一人でも多くの子どもにスポンサーを見つけようと努力しています。どうぞ、身近な方々にメトロをご紹介ください。

メトロ紹介&申込サイト⇒

<https://metroworldchild.jp/metrogenerallp/>



日本事務所よりごあいさつ！

今月は、フィリピンツアーを開催できたことを感謝しています。来月号では、現地の様子を皆様にお伝えできずことを楽しみにしています。

お祈りいただいておりますビル師の体調は、随分回復し、スタッフたちにはすでに熱いメッセージを語っています。皆様のお祈りとご支援を心から感謝申し上げます。

日本では、3月末からの陽気で急に桜が咲き始め、すぐに満開を迎えましたが、皆様のご健康はじめ、あらゆる点で守られ、この春の日々を満喫できますことを願います。

また、新年度が始まり、進学や就職、転勤などで環境の変化を迎え、新しいスタートを切られた方々もいらっしゃると思いますが、新年度の歩みが復活の主の力によって豊かに祝福され充実したものとなりますようお祈り申し上げます。

日本事務所代表 万代栄嗣(まんたい えいじ)



メトロ・ワールド・チャイルド日本事務所

所在地 〒104-0061

東京都中央区銀座5-14-6
橋ビルII 7階 TFC内

電話 03-6264-7370 (松山事務所 089-992-9020)

FAX 089-925-1501

メール metrojapan@mission.or.jp

URL <https://metroworldchild.jp/>



すべてのお振り込みは、下記宛にお願いいたします。

ゆうちょ銀行：一六九店 当座預金 0041610

郵便局：記号番号 01650-3-41610

口座名義はどちらも同じ

メトロ・ワールド・チャイルド・ジャパン